

半世紀ぶりの芦ノ湖

2022.10.30 池田良穂

静岡・清水での仕事の後、箱根の芦ノ湖に足を延ばしました。学生時代に行って以来ですからほぼ半世紀ぶりの訪問です。高速道路を降りてから箱根の外輪山に登る狭い山道をくねるように走りました。愛車のナビは、広い道路と指定しても、よくこうした狭い道に誘導してくれます。ところどころ車の行き違いもできない場所もあり、慎重に登って箱根スカイラインの広い道路にでて一安心。そこからは下り坂を下って、芦ノ湖の北端の桃源台近くのホテルに入りました。

芦ノ湖には2つの観光船事業者が、計6隻の遊覧船を運航しています。芦ノ湖遊覧船(伊豆箱根鉄道グループ)と箱根観光船(小田急グループ)で、よく知られた海賊船型の遊覧船は箱根観光船が運航しています。芦ノ湖遊覧船は、双胴型観光船で湖の南部の箱根町と元箱根の2ヶ所の栈橋から出港して、現在は湖の南半分だけを回るクルーズを行うのに対して、箱根観光船は海賊船型の単胴船で箱根町を起点にして元箱根に寄港して北端の桃源台まで行く航路を運航しており、湖の南部の箱根町および元箱根と桃源台との間の片道乗船する旅客も多く、観光客のための定期船としても機能しているようでした。箱根観光船の年間乗客数は80万人を超えるといいますが、経営は順調のようです。一方、日本の双胴船の先駆けともなった芦ノ湖遊覧船の方は経営が芳しくなく、来年には富士急に譲渡が決まっているとのことでした。

さて土曜の朝に元箱根の港で待つと、起点となる箱根町の栈橋をでた船が10分ほどで到着し、箱根神社の赤い鳥居と富士山をバックに両社の遊覧船の写真を撮ることができました。当日、芦ノ湖遊覧船は1隻だけの運航のようでしたが、箱根観光船は3隻がフルに稼働していました。

元箱根の栈橋から海賊船「クイーン芦ノ湖」に乗船しました。この船は2019年に完成した最新鋭船で、デザインは水戸岡鋭治氏。建造はジャパンマリテッドで、神奈川工場で造ったブロックをトレーラーで運んで、湖畔で組み立てて進水させています。

船内は、前半分が特別室で、後ろ半分が一般席。出港すると行き来ができなくなる造りになっていました。

往復運賃は2220円で、特別室の料金が1110円加算されました。元箱根の栈橋を出て、芦ノ湖を縦断して25分で桃源台に到着し、10分ほど停泊して乗客が乗下船した後、最南端の箱根町に向かいました。箱根町の栈橋には「ビクトリー」が停泊しており、それに乗り換えて元箱根に戻りました。元箱根から乗船すると、このように箱根町で船を乗り換えるようになっており、そのおかげで1回のクルーズで2隻の船に乗ることができました。「クイーン芦ノ湖」は新しいせいもあるのかもしれませんが、「ビクトリー」に比べるとはるかに快適でよいデザインでした。ただ、「ビクトリー」には操舵室が見える窓がついていました。



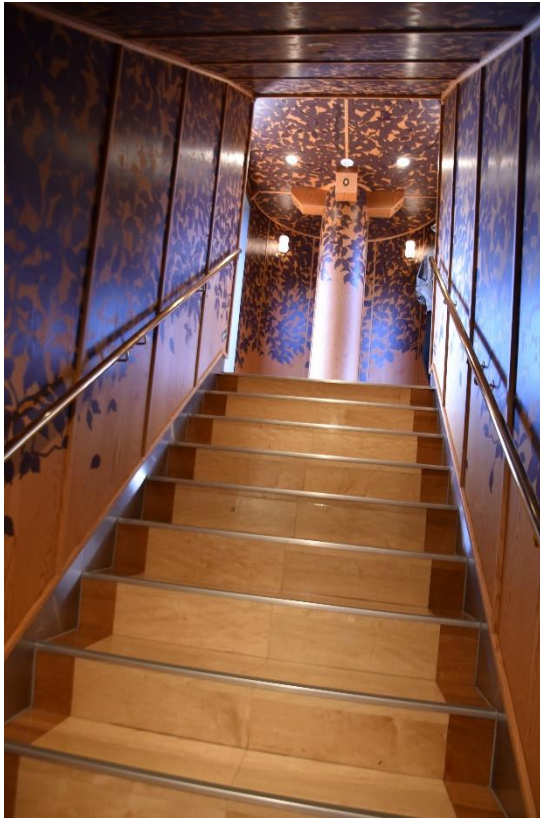


箱根神社の鳥居と富士山をバックにして元箱根の棧橋に入港する芦ノ湖観光船の「あしこの丸」を撮影しました。

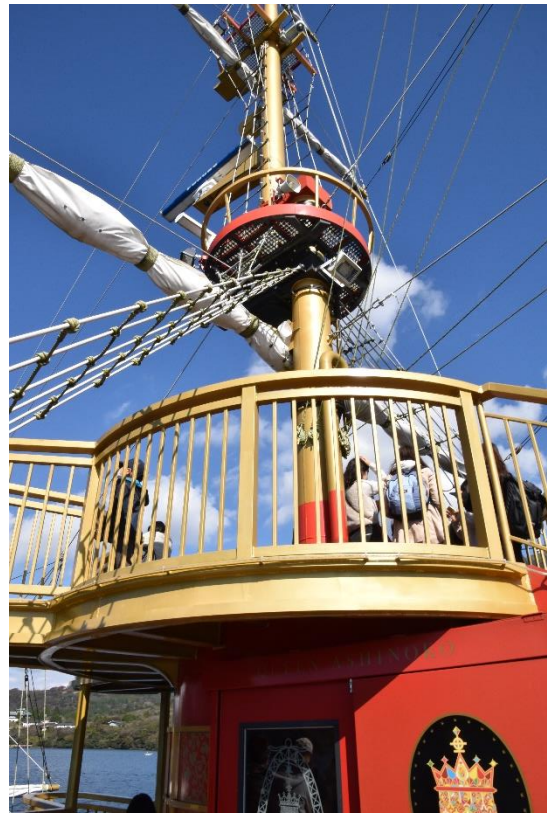


続いて入港する「クイーン芦ノ湖」。「あしこの丸」の入港から 10 分もたっていませんが、富士山は雲の中に姿を隠して、その後は一日中姿を現わしませんでした。





「クイーン芦ノ湖」の船内です。



箱根町から元箱根まで乗船した「ビクトリー」です。前方の1/3くらいが特別室スペースで、後方が一般席です。



「ロワイヤルⅡ」とは湖上で反航しました。



元箱根港の棧橋に停泊する芦ノ湖遊覧船の「十国丸」(左)と「はこね丸」です。下の写真の右側に写るのが「第二こま」です。



箱根町の棧橋に係船されていた「第二こま」。この船だけが単胴型で、外観も汚れが目立っており、使われていないものと思われます。



芦ノ湖の湖上で交差する2隻の海賊船タイプの遊覧船です。右が「ビクトリー」で、左が「ロワイヤルII」です。